

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

(別添様式2)

公表日:2023年12月18日

事業所名:親子のがっこう

サービス種類:児童発達支援・放課後等デイサービス

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価 (解答31人)	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	同じ時間帯でのご利用がある場合でも、机上課題と運動課題で目的にあわせて部屋の使い分けをしています。	はい 30 わからない 1 ・快適です	お借りしているお部屋なので、改修や増築することは難しいですが、限られたスペースの中で、個別支援目標に沿った活動が行えるよう配慮していきます。
	2 職員の適切な配置	児童指導員、作業療法士が在中しております。今年度からは、不定期ですが心理士も配置もしました。経験豊富なスタッフの配置ができています。	はい 31	継続した相談や、子どもの発達をみていくことができるようスタッフの入れ替わり等ないようにしていきたいと思っています。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	外階段は、雨の日は滑りやすく、冬は凍結や積雪することもありました。兄弟がおられる場合など、階段を一緒におりるなど気をつけています。	はい 30 いいえ 1 ・子供が落ち着いて活動に取り組める環境になっていると思う	祖父母の送迎になるときや、体調不良やケガ等で階段昇降が難しいときなど、事前にお知らせいただくことで、駐車場までお迎えにあがる等配慮していきます。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	感染症対策として、玩具や子供たちが触るドアや窓などの消毒は継続しておこなっております。また、お子様に合わせた教材のみを部屋にだすようにしているため、療育終了後に消毒し、片付け空間を保つようにしています。	はい 30 どちらともいえない 1 ・快適です	引き続き清潔な空間を維持できるよう努めていきます。また、活動しやすい、集中しやすい空間づくりに配慮していきます。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	職員数が少ないこともあり、業務内容での変更点や改善点など思ったときにすぐに話し合える環境となっていると感じています。そのため、迅速な対応ができ、働きやすさにつながるよう配慮しています。		支援の振り返りの会話の中で話をしてしまっていることもあり、話し合った意見や改善点等の振り返りなどを書面で残すよう努めていきます。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	第三者評価は実施しておりませんが、協力医療機関になってくださっている小児科の先生のご意見をちょうだいしております。		保護者からの要望等があれば検討していこうと考えております。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	今年度は、職員研修のために閉所して外部への研修に参加することもありました。		職員の研修の機会の確保を事業所として取り組み、専門的な質の高い支援ができる人材を育成していけるよう努めていきます。
1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	保護者のニーズをお伺いし、子供の発達に合わせた課題の抽出をおこない個別支援計画を作成しております。	はい 31 ・学校での困りごと等を相談し支援計画に反映することができている。 ・子供の課題にも都度対応してくださる。	保護者のニーズをしっかりとくみとることができるよう保護者と話す時間を大切にします。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価 (解答31人)	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個別支援計画期間で達成できる目標設定となるよう、また行動や課題を細分化し、保護者にわかりやすい目標設定となるような個別支援計画を作成しております。	はい 31 ・子供の苦手な部分を改善できるような支援内容になっている。	子どもの成長に合わせて必要なプログラム(個別活動や集団活動)が実施ができるような体制を今後も配慮して提供していきます。
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	保護者のニーズを踏まえた上で、運動、言語、社会性、生活動作、認知の項目にわけ分析し計画作成をおこなっております。また、全利用者に作業療法士による個別支援の作成もおこなっております。	はい 31	今後も、作業療法士による評価をもとに、個別支援計画を作成し、支援目標を達成していくまでの課題や、ステップを具体的に記載し保護者へお伝えしていきます。
適切な支援の提供(続き)	4	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	個別支援計画に沿った子ども一人一人の活動プログラムを提供しています。	はい 31 ・子供があきないように様々なプログラムが用意されている	引き続き、個別課題を中心におこなっている事業所の良さを活かし、一人一人のプログラムを利用毎に考え、できることやわかることが増えていくような支援を提供していきます。
	5	児童発達支援の場合は保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合は放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会があるか	活動機会として設けることはできていません。行事プログラムには、家族で参加される方が多いことや、きょうだいと一緒に療育へ連れてこられる家族もあり、利用者以外の子どもたちと触れ合える機会があります。	はい 18 どちらともいえない 3 いいえ 3 わからない 7 ・子は個別対応してもらっているのだから分からない ・とても積極的にしていただいています。	利用児のほほみなさんが園や小学校へ通われていることや、事業所の立地環境もあり交流の機会を考えていませんが、保護者の方からニーズがあれば検討していきます。
	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	療育終了後に、実施したことやねらい、次の課題や自宅でできそうなことなどお話をする時間を5分以上はもつようにしています。また、書面でも確認していただくようにしています。また、同席してくださっている保護者の方には、できたことに対して一緒に喜ぶことや「できたねー」と共感できるところが事業所としてもうれしいです。	はい 31	口頭での丁寧な説明を、実際の使用した教材を使って説明することや、書面で確認していただくことで、何をしているのかを明確にお伝えできるよう今後も引き続き配慮していきます。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	いまの子どもの様子を伝えながら、次はどこを目標にしていくのかや、目標を達成するために必要なスキルについてお話をしながら計画の説明しております。	はい 31	目標にした意図が明確に保護者に伝わるような説明の仕方を今後も考慮しながら対応していきます。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価 (解答31人)	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責任・連携支援	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	家庭でできてほしいことのニーズに合わせて、まずは事業所で練習をしてみようことを提案しております。事業所でできるようになったことや、どのように関わったら、子どもが分かりやすいのか、取り組んでくれるのかなどの要点をお伝えしながら実際にできた様子を見ていただき家庭で練習していただくようにし、汎化を目指しております。	はい 26 どちらともいえない 1 いいえ 1 わからない 3 ・よく保護者の不安や話を聞いてくださり、アドバイスをもらえたり一緒に考えてくださりして助かります。	保護者の要望をくみ取れるような関係性を築くことが最も大切だと考えております。相談しやすい雰囲気や関係性の中で、家庭で取り組めそうなことを一緒に考えていけるように支援していきたいです。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	どんなことができるようになってきたのか、またできるようになってきたことで家庭での変化などお聞きして療育内容に反映しているため、保護者とのやりとりは大切にしております。また、動画で家庭の様子をみせていただいたりすることで思いを共有させていただいております。	はい 31 ・学校や日常生活での様子を気軽に話をするができる。 ・よく保護者の不安や話を聞いてくださり、アドバイスをもらえたり一緒に考えてくださりして助かります。	保護者の方と一緒に成長を喜び合えるような関係性を構築していくな中で、しっかりとニーズを把握し伝えられる対応力を身につけていきます。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	利用している時間やそれ以外の時間帯などいつでも相談できるようお声かけはしています。また、心理士への相談を希望される方も増えてきました。	はい 30 わからない 1 ・よく保護者の不安や話を聞いてくださり、アドバイスをもらえたり一緒に考えてくださりして助かります。	傾聴する姿勢を大切に、相談してよかったと思ってもらえるような相談援助スキルを高めていきます。また、園や学校への相談であれば、相談事業所と連携したり、保育所等訪問支援を利用していくなど、幅広い対応を考えていきます。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	集団を利用されている方は、お話をされている保護者の方はいませんが、個別療育中心なため、保護者間の交流は積極的におこなっていないのが現状です。「みなさんどうしていますか？」などの質問される方はいらっしゃいますので、後日他の保護者に聞いてお伝えすることはしています。また、来年度支援学校へ入学される方を対象にリトミックあそびなどの集団へお誘いして保護者同士の顔合わせをさせていただきました。	はい 12 どちらともいえない 5 いいえ 4 わからない 10 ・他の保護者との意見交換などをする機会がない。	仕事上や、同じ園同士・・・といった個人情報を守りながら、保護者間の交流を希望された方にはお話ができる場を提供していこうと考えています。希望者が増えれば、今後年長児と小学校1年生の親を対象にしたお話など、就学への悩みや、未就園児の保護者の就園に向けた会など開催できればいいなと思っています。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情の窓口に関しては、契約時にお住まいの地域の窓口も併せて案内していくようにしました。	はい 23 どちらともいえない 2 わからない 6	苦情マニュアルに沿って、苦情の内容を的確に把握し対応していきます。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価 (解答31人)	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	平日に代休をとる日が不定期なため、口頭と掲示板にてお知らせするように努めています。また、利用時に、次の予約日の確認をすることを徹底し、紙で日にちをお渡しするようにしています。 放課後等デイサービスに関しましては、月1回と利用回数が少ないため、3か月先の開所日をお伝えし、2か月前には、日にちと時間をメモでお渡しするように努めています。	はい 31	引き続き利用日の確認や休みの日をもれることなくお伝えしてけるよう、チェック用紙を活用しながら伝達への配慮をおこなっていきます。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	近隣であるイベント情報や講演会なども掲示するようにしました。	はい 15 どちらともいえない 3 わからない 13	保護者の必要としている情報をくみ取りながら掲示板を活用していこうと考えています。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	見学や契約のときに、保護者の方へ、同じ地域の方と重ならない時間帯がよいか、お仕事関係での支障はないか等意見をお聞きするようにしています。	はい 31	個人情報には十分注意しながら予約を取るときに予約の前後等注意を払いながら対応していきます。
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各マニュアルを策定しており、マニュアルに沿って対応しています。マニュアルに関しては、玄関の本棚に置き、保護者の方もみていただけるようにしています。	はい 21 どちらともいえない 2 わからない 8	1年に1回以上のマニュアルの確認や変更などを職員全員で引き続き行っていくことで周知徹底をめざしていきます。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	定期的に、病院やデイサービスと一緒に訓練をおこなっています。	はい 14 どちらともいえない 1 いいえ 2 わからない 14	施設間の連携を図りながら、非常時に備え安全に避難できるよう訓練をおこなってまいります。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	虐待に関する外部への研修への参加や、事業所内での研修もおこなっています。		引き続き、人権やハラスメント、身体拘束なども含めた虐待を防止するための職員への研修や適切な対応方法を学べる機会をつくっていきます。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	子どもが怒って暴れたときなど、家庭ではどのように対応しているのかききながら別室に連れていくことや、物を投げるなどの危険行為に対しての対応の仕方など保護者へ同意を求めてから対応するようにしています。		身体拘束のマニュアルに沿って保護者への説明や計画の策定をおこなっていきます。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価 (解答31人)	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	事業所内で食事をすることはありませんが、集団活動の中で食事動作の練習として取り入れることはありません。その都度、アレルギーの確認をしながら提供のお菓子などを決めています。また、新しくアレルギーがでたお子様に関してはカルテに記入するようにしています。		今後も、全職員がアレルギーの把握ができるよう、また、提供のお菓子を提示し了解を得てから食事指導をするように心掛けます。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットを作成後、職員間で話し合う機会を設け事故防止につなげています。		今後も事故となる前に未然に防ぐことができるよう環境の整備や職員間での共有を徹底していきます。
満足度	1 子どもは通所を楽しみにしているか	子どもの好きなこと、好きなあそびを把握した中で、子どもに合わせた教材を用意し、興味を持って意欲的に取り組める環境となるよう配慮しています。	はい 28 どちらともいえない 2 わからない 1 ・毎回利用する日を楽しみにしている。 ・帰宅後同じ教材を欲しがり意欲的に取組んでいると思う。	一人一人の子どもの育ちをしっかりと見つけ、子どもたちが、できた！楽しい！やってみよう！と自信が持てるお手伝いができる事業所を目指しています。
	2 事業所の支援に満足しているか	相談されたことについて一緒に支援方法を考えさせていただくようにしています。	はい 30 どちらともいえない 1 ・とても満足しています。継続して通所できるとも伸びそうで期待しています。	どんな相談事やニーズにも対応していける幅広い知識と専門性を高めていけるよう日々研鑽していきます。また、保護者の方が自分らしい子育てをみつけ笑顔になるお手伝いができるような事業所を目指しています。